

## 令和5年度首里城扁額製作検討委員会 第1回【議事概要】

日時:令和5年12月21日(木)14:00~16:30

会場:アイムユニバース・てだこホール 市民交流室

### 1. 今年度・今後のスケジュールについて【資料1】

- 委員からの意見等は無し。資料の通り進める。

### 2. 試作品の作業進捗について【資料2】

- 委員からの意見等は無し。

### 3. 扁額仕様の決定について【資料3】

#### ① イヌマキ材の使用

- ワーキングにて木材の品質が確認されており、額縁枠部の木材としてイヌマキ材を使用することを決定する。【資料3-P1】

#### ② 題字彫刻の厚み

- ワーキングにて題字彫刻の厚みについては比較、議論を重ねている。中山世土の厚みは1.8cmで決定する。【資料3-P2】

#### ③ 額縁彫刻図案

- 資料の見出しで「行龍図案」とあるが、行龍は横向きの龍を指す。今回の図案であれば、正龍、降り龍、行龍、全体の龍を指すので、表現を見直す必要がある。【資料3-P3】
- 図案において、台湾事例は参考にしていないので、資料の「台湾事例を参考」という表現は訂正が必要。正龍は中国事例を参考している。【資料3-P3~4】
- 七宝繫に関するワーキングでの意見として、表現の認識が異なっているので見直しが必要。16~17世紀の七宝繫ぎは丸みを帯びており、18~19世紀になるにつれて細くなる。細かさ、大きさではなく、丸みがあるものからだんだん細くなるということである。また、細かい彫刻が上級の仕上げということではない。【資料3-P5】

#### ④ 髹漆・加飾の色味について

- 黄色塗について、レーキ顔料に加える松煙は「0.5~1%」と幅をもたせて表記した方がよい。レーキ顔料は紫外線にどれだけ当たるかで発色してくるが、同時に白っぽさも出てしまう。それを防ぐために松煙を加えるというテクニックである。また、乾燥する期間が早すぎるので、あと1~2日かけて乾燥させるとよい。【資料3-P8】
- 額縁彫刻の金薄磨について、「箔下に弁柄漆を塗る事例はない」とするよりも、貝摺奉行所文書に「金箔の下には黄色漆を塗る」と記録があることを整理した方がよい。【資料3-P11】
- 正龍の試作はこれから上塗り、金箔貼りだが、既に中塗りが厚すぎるので、この後すぐに金箔を貼ってもよいと考える。これ以上塗りを重ねると、木彫の線が見えにくくなってしまう。彫刻を生かす塗りの技術が必要かと思う。

- 彫刻の細かさによって、透き漆の拭き取り方にムラができてしまっている。拭き取りが残ると後々黒ずんで見えてしまう。技術的な指導もできるとよい。